

令和3年10月18日

静岡県庁社会部記者室 各報道機関
浜松市政記者室 各報道機関 御中

国立大学法人静岡大学

第15回超領域研究会／第3回静岡県三大学連携シンポジウムを開催
— 静岡県の大学連携、そして研究成果を世界に発信！ —

静岡大学では、新研究領域の開拓推進を目的として超領域研究推進本部を設置し、その成果報告・共有の場として「超領域研究会」を、また、異分野交流を深め、研究成果を発信するために、静岡県立大学及び浜松医科大学と共同で「静岡県三大学連携シンポジウム」を開催しております。本年は、これらの研究発表を合同で開催することとなりました。

つきましては、別紙ポスターもご参照のうえ、是非とも周知広報にご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

第15回超領域研究会／第3回静岡県三大学連携シンポジウム

開催日時 令和3年11月19日（金）13:30～17:00

開催形式 オンライン（Zoom 配信）

定員 300名（先着順）

参加費 無料

講演 基調講演 公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）
化学研究グループ グループリーダー 中尾 真一 様
招待講演 静岡県立大学薬学部薬学科 教授 轟木 堅一郎 様
浜松医科大学医学部医学科 准教授 山岸 覚 様
静岡大学グリーン科学技術研究所 准教授 鳴海 哲夫 様

静岡大学若手重点研究者による講演

主催 国立大学法人静岡大学 超領域研究推進本部／グリーン科学技術研究所

共催 静岡県公立大学法人静岡県立大学、国立大学法人浜松医科大学

後援 公益財団法人静岡県産業振興財団、静岡大学食品・生物産業創出拠点

以上

参加登録

以下QRコード又はURLから
フォームにアクセスし登録ください。



<https://forms.gle/XBcDuE9knKbjnH6Y9>

お問い合わせ先

○超領域研究会について

静岡大学企画課企画係（超領域研究推進本部事務局）

電話 054-238-5059

メール kikakukakari@adb.shizuoka.ac.jp

○静岡県三大学連携シンポジウムについて

静岡大学グリーン科学技術研究所 多賀

電話 054-238-4945

メール g-admin@adb.shizuoka.ac.jp

静岡大学超領域研究推進本部 第15回超領域研究会



第3回静岡県三大学連携シンポジウム



静岡県の大学連携、そして研究成果を世界に発信！

2021年11月19日（金）13:30～17:00 Online シンポジウム（Zoom 配信）

<タイムスケジュール>

13:30～13:40 開会挨拶 静岡大学 日詰 一幸 学長

13:40～14:30 基調講演「CO₂排出の現状とCCUS技術」



中尾 真一 グループリーダー（公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）化学研究グループ）

大気中CO₂濃度は上昇を続けており、夏季の雨量の増加は甚大な被害を引き起こしている。政府は2050年にCO₂ゼロエミッション達成を打ち出しているが、そのためには強力なCO₂の分離回収技術、回収CO₂の貯留、固定化、再利用技術の開発が必須である。それぞれの技術開発が進められているが、分離回収から貯留、あるいは再利用といった一環プロセスの検証はまだまだ行われていない。本講演ではCO₂排出の現状とCCUS技術について紹介する。

休憩（14:30～14:35）

・ ・ ・ 静岡県三大学連携シンポジウム ・ ・ ・

14:35～15:05 招待講演 1「診断と創薬を目指したDNAアプタマー開発」



轟木 堅一郎 教授（静岡県立大学 薬学部）

アプタマーとは、複雑な立体構造をとることで標的分子に結合する核酸分子であり、その多様な立体構造から様々な分子を認識できる。本講演では我々が開発してきた抗体医薬を特異的に認識するDNAアプタマーとその血中薬物濃度分析への利用、アプタマーを簡便かつ迅速に獲得するための新たな方法論について紹介する。また、新型コロナウイルスのスパイクタンパク質に結合するアプタマーの探索結果についても紹介したい。

15:05～15:35 招待講演 2「マウス脳形成における神経軸索ガイダンス分子の役割の解明」



山岸 覚 准教授（浜松医科大学 医学部）

脳内における複雑な神経細胞ネットワークの構築は、実に精巧に制御されている。細胞の誕生や移動、神経軸索投射は、発生過程においてガイダンス分子によって厳密に交通整理が行われ、最終目的地へと到達することができる。私はこれまでにFLRT2とNetrin-5という2つの新規ガイダンス分子を見出してきたので、これらの因子による脳形成における役割について紹介する。

15:35～16:05 招待講演 3「ペプチド・タンパク質のバックボーンケミストリー」



鳴海 哲夫 准教授（静岡大学 工学部 / グリーン科学技術研究所）

ペプチドやタンパク質の主鎖ペプチド結合を化学修飾することで、それらの構造や機能を有機化学的に制御できる。本講演では、主鎖骨格制御を起点とするペプチドミメティックの創製ならびにアミロイド研究への応用について紹介する。

休憩（16:05～16:10）

・ ・ ・ 静岡大学 超領域研究会 ・ ・ ・

16:10～16:25 若手重点研究者 講演 1「高精度衛星測位技術が加速させる位置情報の応用技術」



木谷 友哉 准教授（静岡大学 情報学部）

衛星測位システムは米国のGPS、ロシアのGLONASSに代表されるが、近年欧州連合や中国そして我が国も自前で「みちびき」を打ち上げて運用している。今や空を見上げれば常時30基以上の測位衛星を捕捉することが可能となった。一昔前では測量用の技術であったセンチメートル精度の位置情報が手軽にリアルタイムに手に入れられるような環境が整ってきつつある。本講演では高精度の位置情報応用に関して本研究室が取り組んでいる内容を紹介する。

16:25～16:40 若手重点研究者 講演 2「菌類と植物とのクロストークに関する化学的研究」



崔 宰熏 准教授（静岡大学 農学部 / グリーン科学技術研究所）

菌類や植物の間の共生と共生関係を介して自然現象が現れる。キノコを含む菌類には、多種多様な化学構造および多様な生物活性を有する代謝産物があり重要な生物学的資源であることが明らかになっている。本講演ではキノコ由来植物成長調節物質、その代謝産物と菌糸成長調節物質について紹介する。

16:40～16:55 若手重点研究者 講演 3「細菌における膜小胞の産生機構と機能設計」



田代 陽介 講師（静岡大学 工学部）

わずか数μmのサイズの細菌は細胞外に100nmほどの微粒子である膜小胞を放出している。近年、膜小胞が細菌感染や疾病に深く関与することが明らかになってきた。本講演では、細菌のユニークな膜小胞産生メカニズムを紹介するとともに、膜小胞の構造・内包物を自由にデザインしてバイオテクノロジーツールとして活用する試みについて紹介する。

16:55～17:00 閉会挨拶 静岡大学超領域研究推進本部 川田 善正 本部長

【参加費】無料

【参加申込】お申込みは、右記のQRコードより登録をお願いします。

QRコードにアクセスができない場合は、メールでURLをお送りします。

【問合せ先】kikakukakari@adb.shizuoka.ac.jp / g-admin@adb.shizuoka.ac.jp

【主催】国立大学法人静岡大学 超領域研究推進本部 / グリーン科学技術研究所

【共催】静岡県公立大学法人静岡県立大学、国立大学法人浜松医科大学

【後援】公益財団法人静岡県産業振興財団、静岡大学食品・生物産業創出拠点

<参加申込フォーム>

